

タイトル:『彫刻研究誌 アートライブラリー』原稿テンプレート

サブタイトル:—論文執筆ガイドラインに関する説明・執筆細則(2020年9月版)—

English Title: Template of manuscript for the Japanese Journal of Sculpture

日彫 太郎¹ , 彫刻 花子² , 彫塑 優作³

1. 正会員, 写実彫刻研究所
2. 正会員, 立体造形大学
3. 会友, 立体造形大学大学院彫刻研究科

Taro Niccho¹ , Hanako Chokoku² , Yusaku Choso³

1. Regular member, Real Sculpture Institute
2. Regular member, Faculty of Sculpture, 3D Art University
3. Fellow member, Graduate School of sculpture, 3D Art University

本稿は『彫刻研究誌 アートライブラリー』の論文原稿書式を説明するものである。本稿は Microsoft Word で作成されており、執筆者は適宜書き換えるなどしてこれを利用されたい。この部分には「和文抄録(400字程度)」を記述する。タイトルページは余白設定上下左右それぞれ「27mm」とする。本頁を含め、本稿で使用するフォントは第4章3節にてまとめて説明する。タイトルページの構成は、タイトル(必要に応じてサブタイトル)・英文タイトル・著者氏名・著者所属・英文著者氏名・英文著者所属・抄録・Abstract・キーワード(和・英)とし、行間は本テンプレートを参考とした上で、全体を1ページに収めなければならない。タイトル(和・英)は必要に応じて2行以上になっても差し支えない。サブタイトルがある場合、英文タイトルは「:」を用いるなどして適宜表記する。著者氏名は第一著者から順に記し、氏名の肩に番号を付け、氏名下部に所属を記す。これは英文氏名においても同様である。

Abstract: This paper describes guidelines for writing papers for the ART LIBRARY, the Japanese Journal of Sculpture. In this description, it shows that detailed instructions on font size and styles of all elements in the paper, including paper title and authors, abstract, each section and subsection heading, and reference list. This document also serves as a sample document. It provides authors a concrete appearance of formatted pages. (Abstract は 100 words 程度)

キーワード Keywords :

彫刻, 日本彫刻会, アートライブラリー, ガイドライン, フォーマット

Sculpture, Japan Sculptors Association, ART LIBRARY, guideline, format and style

1. はじめに

本稿では『彫刻研究誌 アートライブラリー』に論文を投稿する際の書式について説明する。本研究誌が対象とする領域・分野や投稿資格等については、投稿規程^{註1}を参照されたい。また、査読の手順・方法については、論文審査規程^{註2}に記述されており、これに従う。

2. 原稿

2.1 原稿の体裁及び提出データ

図表も含めて、原稿は完全版下原稿で提出されなければならない。体裁が整っていない原稿は受理されない。投稿後は、査読による修正要求に応える修正のみ認められ、それ以外の校正段階の訂正・変更は認められない。

2.2 提出データ

執筆者は論文の投稿に際して、原稿のデータを PDF で提出する。データサイズ等によりメール添付に問題がある場合には、研究誌編集委員会（メールアドレス：artlibrary@niccho.com）に事前相談をした上で、必要に応じて CD 等の媒体でこれを提出する。

3. ページ構成

3.1 用紙と余白、ページ数

本稿は執筆に際してのテンプレートとなるものであり、執筆者は適宜これを書き換えるなどして利用することができる。用紙は A4 縦使い横書きとし、上下左右の余白はそれぞれ 20mm・24mm・20mm・20mm とする。

ページ数は、タイトル頁を含めて標準 6 ページ、原則として 12 ページまでとし、フッター中央に頁番号をつける。

3.2 タイトルページ

本稿の 1 ページ目をタイトルページとする。タイトルページには「論文タイトル(和・英)」¹⁾「執筆者氏名及び所属(和・英)」²⁾「抄録及び Abstract」³⁾「キーワード(和・英)」⁴⁾について、抄録部分に記載されている事項を参照の上で記述する。Abstract 等に記載されている英文は投稿の事前にネイティブ・チェックを受けたものとする。タイトル～所属左部の黒帯は適宜長さを変えて体裁を整える。

3.3 見出し

章の見出しは、対応する章番号を算用数字で振り、文字列中央揃えとする。節の見出しは、対応する番号を適宜振り、左揃えとする。以下、項の見出しについても節と同様に扱うことを基本とするが、細かい区切りの形式については執筆者の判断で決めてもよい。

見出しの上は一行空けることとする。ただし、見出しが最上段に来る場合は行を空けずに書き始める。また、章・節の見出しが重なる箇所は行を空けない。

3.4 本文

本文はタイトルページの次頁から 2 段組で記述する。段組のレイアウトは、1 段 48 行とし、1 行 24 文字とする。段落頭のインデント(改行後の字下げ)は 1 文字程度とし、これらは本稿において既に設定されている。

本文中に用いる約物について、句読点は「、」「。」を用いる。括弧の使用に関する基本的なルールは下記に定める通りとする。

- ・「」：引用文・論文タイトル・シリーズ名・会の名称等
- ・『』：書籍名・雑誌名等
- ・《》：彫刻作品等の美術作品名
- ・〔〕：引用などへの補足
- ・“ ”：カギ括弧の対象が英文時に使用

上記に示した括弧の扱いに関するルールは、必要に応じて(語句の強調に用いる等)執筆者の判断で便宜的に決めてもよい。

文中に用いるフォントについては、第 3 章の図表においてまとめて示す。表 1 を参照のこと。

3.5 謝辞について

必要に応じて、本文の後に謝辞を記述することができる。章の見出しに倣い「謝辞」を見出しとするが、章番号はつけない。文章段落は本文と同様の書式とする。

所属機関等の倫理委員会の承認を得て実施された研究についてはその旨を記載する。また、競争的資金等により実施されている研究の一環として行われ、その旨の記載が求められる場合も、ここに記述する。

3.6 文末の記載事項

3.6.1 註

本文中の註記箇所には「註 1」のように肩付き(上付き)文字で表し、文末の「謝辞」の後にまとめて記す^{註3}。

3.6.2 引用文献

本文中の引用箇所には「1)」のように、片括弧付き算用数字で、肩付き文字として表し、文末の「註」の後にまとめて記す。引用文献欄に記載する事項は、本稿末に記されている引用文献例の形式に倣うものとする。

「日本彫刻会は、1970年社団法人日本彫塑会として新たな出発をしてから来年で、50周年の節目の年を迎えます。」⁵⁾のように短い引用は本文中の行内に続けて記し、長い引用については下記のように改行・1 行空けた上でインデントを 1.5 字下げ、区別して表記する。

戦前よりすでにわれわれ彫刻家は、一体となってわが国芸術文化の発展に寄与してきたが、終戦後いち早く高度文化国家建設の一翼をになうべくたち上がり、昭和 22 年「日本彫刻家連盟」を結成、彫刻の研究、

展覧会の開催、彫刻資材の供給、機関誌の発行等を行い、わが国美術界に貢献するところまことに大なるものがあつた。⁶⁾

3.6.3 図版典拠

文末の「引用文献」の後に図版の典拠を明記する。出典については、引用文献と同様に、本稿末に記されている図版典拠例の形式に倣うものとする。

図版等の使用について、必要な場合は、執筆者が著作権に関する措置を講じる。

4. 図表

4.1 図表の扱い

本稿において「表」とは、文字・数字・記号と縦横の罫線のみで表されるものを指す。一方、「図」とは、作品写真・説明のための描画・グラフ・フローチャート等を指し、「表」に当てはまらない不定形のもの全てを「図」と定める。

図と表はそれぞれ区別し、「図 1」「表 1」といったように通し番号をつけて表記する。図表を挿入する際は本文中の適した箇所而言及される必要があり、説明の無い図表が単独で示されることは認められない。

原稿にはカラー図版を認める。電子版として公開される際には、カラー原稿となる。ただし、紙媒体の研究誌はモノクロ印刷となるので、その場合でも視認性に問題が無いことを執筆者は予め確認しておく必要がある。

電子原稿(提出用 PDF データ)においては、図表の解像度が 330dpi 以上となるように設定を行う。また、フォントは全て埋め込む設定としておく。

4.2 図

図は写真や描画などが十分に鮮明なものを用い、図中の文字は本文の文字サイズと釣り合う大きさを基本とする。図 1 に例を示すように、図の表題・キャプションは図の下につける。表題・キャプションのフォントは「4.3 表」において示す。

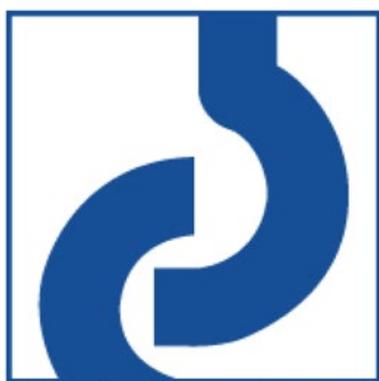


図 1 公益社団法人日本彫刻会シンボルマーク

4.3 表

図の場合と同様に、表中の文字は本文の文字サイズと釣り合う大きさを基本とする。表題・キャプションは表の上につける。

表 1 は、本稿に用いるフォントの詳細を示したものである。表中のフォントの種類について、括弧内は実際に本稿において設定されているフォントを示している。

表 1 本稿において使用するフォントの種類及びサイズ

箇所	フォント種類(括弧内推奨)	サイズ (pt)
タイトル	ゴシック (MS P ゴシック)	16
サブタイトル	ゴシック (MS P ゴシック)	12
タイトル(英)	サンセリフ (Arial)	12
氏名	明朝 (MS 明朝)	14
所属	明朝 (MS 明朝)	10.5
氏名・所属(英)	セリフ (Century)	10.5
抄録	明朝 (MS P 明朝)	10.5
Abstract	セリフ (Century)	10.5
キーワード	明朝 (MS 明朝)	10.5
章・節タイトル	ゴシック (MS P ゴシック)	10
本文	明朝 (MS P 明朝)	10
図表表題	ゴシック (MS P ゴシック)	9 程度
註・引用文献・ 図版典拠	明朝 (MS P 明朝)	9 程度
英数(タイトル以外)	セリフ (Century)	適宜

表中に指示がない、或いは原稿を Microsoft Word 以外で作成する場合は表 1 を基本とした上で、執筆者の判断で適宜定めることができる。ただし、その場合も原稿全体の統一感に留意することが求められる。

図表は文字のみの情報を視覚的に補うものであり、簡潔明瞭な記述のためにも積極的に用いることを推奨したい。特に、彫刻表現に関わる詳細について論じる場合にはその論拠となる図版が示されることが望まれる。

5. 確認事項

以上のように、本稿では『彫刻研究誌 アートライブラリー』の書式を示してきた。

最後に、ここで投稿に際しての確認事項を挙げておくので、執筆者は下記を確認の上で投稿に臨みたい。

投稿前のチェックリスト

■ 論文の適格性

- 原著論文として同じ内容を他に投稿中ではない
- 原著論文として同じ内容が他に掲載されていない
- 他の出版物の著作権を侵害していない
- 所属機関が定める倫理規則に反していない

■ 原稿書式の適格性

- テンプレートに示された書式に則っている
- ページ数は規定内に収まっている
- 原稿下部中央には通しの頁番号が振られている

■ 記述の適格性

- 論文タイトルは内容を簡潔によく表している
- 英文タイトルは和文表題に対応したものとなっている
- 抄録は研究の概要を的確に表している
- Abstract の英文はネイティブ・チェック済みである
- 見出しは章・節の内容を的確に表している
- 用語は適切に用いられている
- 一文は適切な長さとなっている(4行程度以内)
- 記号は適切に使用されており、不統一はない
- 誤字やミスタイプがないことを確認した

■ 図表の適格性

- 図表は鮮明である
(圧縮をする際は 330dpi に設定する)
- 図表はモノクロ印刷でも問題がない
- 図表の説明文が本文中にある
- 図表内の文字も視認性に問題がない
- 著作権に関する必要な措置が講じられている

■ 引用文献標記の適格性

- 引用箇所には通し番号が振られている
- 通し番号は肩付きの片括弧となっている
- 本文内で、引用部分は明確に区別されている
- 文献の記載形式・略記法は正しい
- 未発表及び投稿中の文献は引用していない

謝辞

日本彫刻会の会員・会友各位及び『彫刻研究誌 アートライブラリー』への投稿者各位に感謝を申し上げる。また、〇〇の実見調査に協力をいただいた〇〇美術館、〇〇について重要な示唆を賜った〇〇資料館〇〇氏に厚く御礼を申し上げます。

本研究は〇〇研究費(課題番号〇〇)の助成を受けたものである。なお、本研究に関わる実験やアンケートは、〇〇大学〇〇学部倫理委員会の承認(承認番号〇〇)を受けて実施されたものである。

註

- 註 1 『彫刻研究誌 アートライブラリー』論文投稿規程。同会ホームページ上(<https://〇〇〇〇>)においてその内容を参照することができる。
- 註 2 『彫刻研究誌 アートライブラリー』論文審査規程。同会ホームページ上(<https://〇〇〇〇>)においてその内容を参照することができる。
- 註 3 註はページ毎ではなく、本文の後(謝辞がある場合は謝辞の後)、原稿末尾にまとめて記す。肩付き(上付き)文字は「フォーマット」「フォント」「文字飾り」から選択することができる。脚注の挿入機能を用いることもできるが、形式は本テンプレートに準ずるものとする。

引用文献

- 1) 著者名, 共著者名:表題, 誌名, 巻, 号, 頁, 発行年
- 2) 著者名:書名, 発行所, 頁, 発行年
- 3) 木彫美香:木彫技法について, 木彫研究, 5巻, p.3, 2015
- 4) A. Sozo, B. Sekicho: Rethinking the Sculpture, Journal of Sculpture, Vol.7, pp. 5-15, 2013
- 5) 公益社団法人日本彫刻会 50周年記念事業:
<https://www.niccho.com/50th/> (最終アクセス 2020.9.1)
- 6) 公益社団法人日本彫刻会設立趣意書: <https://www.niccho.com/rule.html> (最終アクセス 2020.9.1)

図版典拠

- 図 1 公益社団法人日本彫刻会提供資料
図〇-〇〇 筆者撮影
図〇, 〇〇 著者名:書名, 発行所, 頁, 発行年
図〇 図録『〇〇彫刻展』, 〇〇美術館, 頁, 発行年
図〇 筆者作成
図〇 〇〇〇美術館所蔵資料